

第 41 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	阿萬ゼミⅡ	チーム名	フェミニン
タイトル	男と女の経済学		
テーマ群	b)財政・金融、e)産業・企業		
メンバー	石田陽太郎・梶田小百合・川添千紘・北川泰雅・小松秀輔・佐藤佑樹・多井三香子・富田真未・山本大介・山本福太郎		
研究計画内容	<p>第一に、男女での消費の違いを調べます。</p> <p>方法：アルバイトをしている大学生を対象にアンケート調査をします。</p> <p>アンケート内容：①アルバイトの給料をどのように使っているか。</p> <p>ただし一人暮らしなどの理由でやむを得ない出費を考慮する為、 「抑制出来るなら、その分の出費をどのように使いたいか」という問題も提示します。</p> <p>②異性を対象にしている商品で羨ましいと思うものは何か。</p> <p>例えば、エステ、ワックス、矯正下着など。</p> <p>第二に、アンケート結果を集計して、男女の消費の割合が多い1部門に絞ります。</p> <p>その部門で、異性を対象にしている商品で大学生が興味を持っている物をいくつか挙げます。</p> <p>そしてそれらの商品に特化した企業を調べます。</p> <p>対象の企業を定めたら、その企業のホームページを見て調べたり、訪問します。</p> <p>そこでは、なぜその様な商品を売り出したのか、それらの商品にかかる工夫などを調べます。</p> <p>第三に、それらの商品に時代背景など外部的要因があるのを調べます。</p> <p>男女の消費に対する価値観が変わる要因は何が原因だったのか。</p> <p>例えば、法律では“男女雇用均等法”。流行では“草食系男子”などです。</p> <p>そしてそれらを時代ごとに年表にして見ていき、現在にどうつながっているのかを調べます。</p> <p>最後に、上記の情報から考え、今後市場がどうなっていくのかを検討します。</p> <p>私達はこれからの時代、消費者のニーズはどのように変わっていくのか、必要とされる部門、商品は何なのか。という事を研究し、発表致します。</p>		